

和歌山東高等学校

実施日時	令和 元年 11月14日 (木)
参加者	3年生徒 185名、教職員 16名、地域住民等 0名 計 201名
実施内容	テント組み立て、炊き出し・配膳訓練、応急手当訓練

事前の取組

- ・全校生徒対象の火災及び地震による津波を想定しての避難訓練 (R元. 7. 8)
- ・全校生徒対象の地震を想定してのシェイクアウト訓練 (R元. 10. 31)
- ・3学年各クラスで班 (大テント・小テント・運び出し・アルファ米・応急措置・誘導) を決める
- ・体育館へ集合し、説明

主なプログラム

- 1、テント設営 (クラスごとに大・小1張づつ)
- 2、運び出し (クラスごとに机や椅子を運び、テント下の設営)
- 3、炊き出し (クラスごとに肉や野菜を切り、豚汁うどんを作る)
- 4、アルファ米調理 (クラスごとにアルファ米を作り、クラス人数分用意)
- 5、応急手当 (各クラスから2~3名、AEDと心肺蘇生法の講習を受ける)
- 6、誘導 (地域住民が参加した場合、各場所への誘導を行う)

参加者感想文

・今日は災害が起こった時を想定して体験作業をしましたが、アルファ米や豚汁うどんを作っていて思ったことは、実際災害が起こった時ここまで物資はそろっているのかということです。

災害が本当に起こった時には水も十分に使えないのではと思いながら作業しました。

いつ東南海地震が起こるかわからないですが、自宅での水や食料の管理をもう一度確かめたいと思います。食べ物に関してはアルファ米の調理は簡単でしかも味も何種類もあり、お腹持ちもよく何かの時にはすぐ役に立つと思ったので、家にも非常食として置いておこうと思いました。今日の体験をいざという時に活かしていきたいです。

・AEDの使用のしかたも習いましたが、すべて機械が音声で案内してくれたのでわかりやすかったです。どこにAEDが置いてあるのかを確認することもこれからは意識したいと思います。

今回の体験をいかして、何かあった時に少しでも役に立てるようにしたいとおもいました。

成果と課題

【成果】生徒にとっては、普段経験できない炊き出しやアルファ米の調理、AEDと心肺蘇生法の講習は良い体験となった。

【課題】地域住民への参加を呼びかけたが、参加者がなかったため、今後地域との連携・協力態勢を構築したい。